



Hiroshima City University Language Center

広島市立大学語学センター
Newsletter No.72 (2024.3.29)



2004・2005 年度 語学センター長 青木信之先生、退職メッセージ

1994 年の開学時から約 30 年もの長い間、本学の英語教育の中核で活躍された国際学部青木信之教授が3月末でご退職されます。

青木先生は在職中長期に渡り、大学執行部で手腕を振るわれましたが、それ以前は、大学設立準備室の時から語学センターの立ち上げに寄与され、2004・2005 年度には語学センター長に就任されていました。

開学当初、当時最先端の CALL(Computer Assisted Language Learning) システムを最大限に活用した授業ができるように、毎日熱心に教室で教授法を研究され、Hyper Card で開発した教材で英作文を指導したり、ビデオ映像と電子辞書、ワープロの Nisus Writer を同時に学生モニターに映し、リスニングさせたりしていました。Windows95 以前の時代、新しい形の授業に、学生はみんなワクワクしていたものです。

青木先生が自習室でプリントとカセットテープを使ってスタートした課外英語学習プログラムも e ラーニングになって久しく、今も入学前プログラム、授業や課外、社会人対象講座など、幅広く活用されています。

青木先生のアイデア力・推進力無くして、現在のユーザーフレンドリーで魅力ある語学センターへの進化は遂げられなかったでしょう。

目次

青木信之先生、退職メッセージ

語学センターの記憶

国際学部教授(元学長・理事長) 青木 信之・・・1

長期派遣留学 どうする? 外国語学習・・・3

国際学部4年 西村 涼

国際学部4年 泉原 百花

知のトライアスロン・・・4

春季休暇課外プログラムを実施しました

JLPT オンラインハーフ模試

視察報告

語学センターの記憶

国際学部教授(元学長・理事長) 青木 信之



◆2月9日 最終講義(講堂小ホール)

定年にあたり、語学センターの思い出を書くようにとのご指名がありました。開学当初などを思い出しながら雑文を書いてみたいと思います。

語学センターの創設は、大学開学1年前の設立準備室の段階から始まりました。まだバブルの余韻もあり、少々の費用をかけても、広島市立大学の語学センターを日本一の施設にしようと、市の職員の方と一緒に全国の施設をみてまわりました。その中で一つ大きな課題として記憶に残っているのは、多言語に対応したシステムをどう作るかでした。当時、アラビア語も含めた多言語に対応している OS は、Apple の Macintosh しかありませんでした。Windows OS であればマシンそのものはいろんな企業のものを選べましたが、Macintosh の OS を選ぶと Apple 社の製品を選ぶほかなく、それが入札における競争原理に抵触するのだと市から指摘されました。今から考えると少し不思議な気もしますが、当時は大きな課題でした。

た。それで一計を案じ、仕様書に「ユーザーフレンドリーであること、例えばマウスボタンが一つであること」というような屁理屈を書き込み、マウスのクリックボタンが一つである Macintosh が導入されるようにしました。

開学当時は「すごく立派な施設ができた」ということで、語学センターの各教室は土足禁止となり、入口でスリッパに履き替えて利用することとされました。しかし、授業開始時間になっても、編み上げられた靴紐を解くのに時間がかかったり、なにかと不便ですぐに土足禁止ではなくなりました。開学当初からシステムを利用してきた者としては、当時はよくトラブルが起きたことを覚えています。40 名ほどの授業で、たった1台か2台、パソコンが起動しないといったトラブルがあると、授業全体の進行に大きく影響し、思ったように授業を進めることができないことがよくありました。



◆2004 年度オープンキャンパス(分割前の 403 教室)

(p2 へ続く)

(→ p1 から続く)



◆最終講義「私が向き合ってきた英語教育の課題」

開学後も語学センターは5年毎にリニューアルされてきました。開設当初ほど予算が潤沢ではなくなりましたが、語学センターのスタッフ、関係教員などで勉強し、知恵を絞り、外国語学習に常に最適なシステムになるよう、また教室環境になるよう努力してきました。協働学習の実験的なシステムが403教室に入ったり、授業観察のシステムが404教室に入ったりしました。また利用者に親しみやすさを提供するため、全てのプリンターとサーバーに遊び心で個別の名前を付けたりもしました。ただ、“Alfred が壊れた”と言われたときに、一体それはどの教室のどの機器が故障したのかすぐにはわからなくなり、以後、こういった遊び心は封印されました。

教室のレイアウトにも大きな変更が加えられ、403Aと403Bは最初一つの大きな教室でしたが、2つに分けて403Aは講義録画や配信用の機材、403Bは通訳練習機能を備え付けるなどの変更を加えたりしました。また、自習室を408教室の一部と合体させ、広い空間に変えるなど、リニューアルのたびに、壁の位置を変更したり、新たなドアを設けたりと、物理的な変更も頻繁に行ってきました。さらに、大学広報という観点から、教室のデザインにもこだわり、パンフレットについても細部にわたって工夫を凝らしました。例えば、403Aは南米で緑、403Bはヨーロッパで青、404はアジアティストの教室として赤を基調にしたデザインなど、いささか安易な発想ではありましたが、教室ごとに異なる地域風の装飾を施すなど、内装にも細心の注意を払いました。語学センターのパンフレットについては、現芸術学部長の吉田幸弘先生にデザインを手掛けていただいたこともありました。



◆市大英語閉講式で受講生に修了証の授与。右は渡辺智恵先生。
(2012年度第2期、403A教室)

今でも、語学センターは知恵を絞って様々な工夫や取り組みをしています。入口のラウンジでは、留学生が各学部学生に英語、中国語、ドイツ語、フランス語などを教えたり、また反対に学生が留学生に日本語を教える「ランゲージチューター」として活躍しており、いろんな言語が飛び交っている姿を多くみることができます。また、図書館棟の1階から語学センターのある4階まで、階段を登りながら英語フレーズの勉強ができる「階段クイズ」も長く実施されています。ちなみに今、エレベーターホールのある1階には“I'm not sure, though.”という英語が載っており、2階まで上がると、「知らんけど」という、日本語の意味が貼られています。

開学以来、こういった様々な工夫のおかげで、語学センターは単に外国語の学習支援をする場にとどまらず、受験生や高校生に対する重要な広報ツールとしての役割も果たしてきました。大変ではありましたが、一方で楽しくエキサイティングな、語学センターの運営について長く関わることができたことは、自分のなかで本当によい経験と思い出になっています。これからも、学生が勉強したい、また本学を見学にきた高校生がここで勉強したいと思ってくれるような施設で有り続けることを心から願っています。



語学センター自習室でのプリントについて

自分のパソコンのファイルを語学センター自習室でプリントする場合、自習室パソコンでファイルを開いてプリントします。OneDrive など自分のストレージや USB にファイルを保存し、自習室パソコンにダウンロードするなどしてプリントしましょう。



2023 年度、組織改編がありました

今年度、組織改編により、新たに国際センターが設置され、語学センターと国際交流推進センターの2つのセンターで国際センターの組織になりました。主に短期語学留学を中心に、情報共有や連携を強化しています。

先輩に聞きました！

長期派遣留学 どうする？外国語学習

フランスへの長期派遣留学から帰国後にランゲージチューターを利用していた2人の先輩に、留学前、どのようにフランス語の準備をしたか、また、現地で痛感したこと、そこからの更なる取り組みを、みなさんへのエールとしてシェアしていただきました。

レンヌ第2大学

使えるフランス語の習得

国際学部 4 年
西村 涼

私は 2022 年 1 月から 2023 年 1 月（3 年後期～4 年後期）までレンヌ第2大学に派遣留学していました。語学の勉強法は、目標や個人の特性によって合う方法があると思いますが、私の目標は、フランスに住めるくらいフランス語でコミュニケーションをとれるようになることでした。

渡航前の勉強として①フランス語 I～IV の履修②ランゲージチューターで会話練習③仏検④映画のワンシーンでシャドーイングをしていました。ランゲージチューターでは、自分が大学で何を勉強しているか、毎日何をしているかなどの受け答えを教えてもらっていました。フランスへ着いてから全くコミュニケーションがとれないことに気が付きました。それまでの勉強法が暗記だったからです。フランス語を口に出して発する訓練が足りておらず、頭の中で文章を作って言いたいことを表現するのが難しかったです。正しい発音やリズムもわからず、言いたいことを理解してもらうのも難しかったです。

また、フランス人は教科書通りのフランス語で会話していないのです。日常会話では、若者言葉や日本のことわざのような熟語表現が常に使われていて、知らない単語ばかりでした。それに加えて早口で話されると、理解も返答もできないのです。フランス語で会話ができるようになるまでに行った勉強法は、とにかくフランス人と話して真似をすることです。わからない単語や表現が出てきたら意味を聞いて、フレーズごと覚えて、使えるシチュエーションを増やしていきました。

渡航前の勉強ももちろん役に立ちました。文法の基礎を理解出来ていたことで、理解吸収が早かったと思います。ただ、座学や 1 人でインプットする勉強法では、話せるようにはなれないと思います。生きたフランス語を聴き、それを真似することで、自然な発音やイントネーションが身につく、コミュニケーションが簡単になりました。

渡航後のランゲージチューターでは、渡航前よりも内容の濃い会話や議論ができるようになり、有意義な時間だと毎回感じます！新しい語彙も、暗記するだけでなく、「使える」「身につけている」感覚があります。

渡航前にもっとしておけばよかったことは、①フランス人留学生と密にコミュニケーションをとればよかったなと思います。



◆友人とマルシェや公園などの市内散策

す。互いに日本語やフランス語を使う機会を増やして会話力も伸ばせましたし、文化交流・情報交換などできたことは沢山あったはずです！②ポッドキャストや YouTube、映画などでフランス語の実際の会話に慣れておくことも大切だと思います。

オルレアン大学

バランス良く学習する大切さ

国際学部 4 年
泉原 百花

私は弊学の派遣留学制度を利用して、2022 年 1 月から 2022 年 12 月にかけてフランス、オルレアン大学でフランス語を学びました。



◆ランゲージチューターでは、グルーブセッションもしていました。
チューターの Beriot Eflamm さんは、レンヌ第2大学からの特別聴講生です。

渡航前の学習としては、①フランス語 I～IV の履修、②フランス語検定準 2 級の受験、③ Podcast でのリスニング、④文法の復習をしていました。元々フランス文学が好きで第二外国語にフランス語を選んだこともあり、どちらかという学習が読み書きに偏りがちでした。

そのため、フランスに到着してからすぐ、もっとリスニングやスピーキング、もっといえば会話の練習に力を入れていた方が良かったなと

思いました。相手が何を言っているのかわからないと Oui / Non すら返せないし、文章は書きながら修正ができるけれど話すときはそういかないので、頭の中で言葉がこんがらかって何も話せない期間が長かったからです。正直、今も頭の中で単語が絡まってフリーズしてしまうことがよくあり、一番の課題です。

もちろん渡航時にすでにある程度文法を理解している、理解してもらえる文章が書けることにもメリットはあり、特に私は寮生活初期に設備トラブルでメールを書く機会が多かったので勉強していてよかったと感じました。ただ、電話で対応せざるを得ないこともあったので、会話練習の大切さも痛感しました。もしフランスに渡航する予定があるなら、ApprendreTV5Monde など無料でフランス語のリスニングの勉強ができるアプリや Web サイトがあるので、それらで耳を鍛えておくことをおすすめします。

帰国後、後期に復学してからランゲージチューターに参加しました。若干フランス語を忘れていたので最初はフリーズしてしまうことも多かったのですが、最後の方は会話も続くようになりました。辛抱強く待ってくれたチューターに感謝しています。

今はフランスのラジオを聴いたり、フランスドラマを見ながらシャドーイングをしたり、「日本の学生が選ぶゴンクール賞」の選考に参加してフランス語で小説を読んだりしています。就職先でフランス語を使う予定はないのですが、趣味や情報収集に使えるレベルのフランス語力を身につけたいと思っています。



◆現地学生と日仏交流イベント参加後の記念写真



映画 DE 学ぼう！

前期に引き続き、『外国語(英語・第二外国語)を映画から学ぼう』をコンセプトに、比較的内容がわかりやすい映画を選出し、ランゲージラウンジで紹介上映を行いました。紹介した作品は、語学センター自習室で視聴可能です。

- 期間 : 10月2日(月)～1月19日(金)
場所 : ランゲージラウンジ
作品 : 10月 千と千尋の神隠し(フランス語)
11月 アリー スター誕生(英語)
11月 ファンタスティック Mr. FOX(英語)
12月 グリンチ(英語)
1月 モールおじさんと
チョコレート工場(ドイツ語)



英語多読マラソン

「英語多読」とは、図書館に配架されている英語多読用ペーパーバックを楽しみながらたくさん読むことで、英語力を高めることを目的としています。自分のレベルに合った比較的やさしい英語の本を読んで、英語力、特に英語の読解力、速読力、語彙力を高めることができます。

3つの目標ワード数(5,000語、20,000語、50,000語)の達成に向けて4名が取り組みました。

期間 : 12月5日(火)～1月26日(金)



春季休暇課外プログラムを実施しました

春休み課外インテンシブ 英語学習プログラム

「CALL 英語集中」「e ラーニング英語」と同等内容の他に、リスニング、リーディング、文法に特化したプログラムがあり、それらを1ヶ月で受講する。

募集期間 1月24日(水)～2月9日(金)
実施期間 3月1日(金)～3月31日(日)
受講人数

一般プログラム 15名
リスニング特化型 8名
リーディング特化型 5名
文法特化型 2名
文法基礎 1名



レアジョブ英会話 日常英会話コース毎日25分

マンツーマンのオンライン英会話レッスンを受講し、受講前後にスピーキングテストを受験するプログラム。

募集期間 1月15日(月)～26日(金)
実施期間 受講開始から1カ月間(～3月5日)
受験人数 5名
受講料 7,980円 *「受講率70%」「スピーキングテスト2回受験」で、半額返成



MyET アプリを利用した英語の発音・発話トレーニング

「発音・発話」を強化できるアプリで、英会話やプレゼンテーション、TOEFLなどのコースを選び、スピーキングのトレーニングを行う。

募集期間 1月15日(月)～26日(金)
実施期間 2月6日(火)～3月5日(火)
受講人数 2名
受講料 3,300円 *「受講率70%」「SP12回受験」で、半額返成



2023年度 後期

JLPT オンラインハーフ模試実施

前期に引き続き、全留学生を対象とした JLPT 日本語能力試験対応のオンライン模擬テスト(e ラーニング)を実施しました。受講期間は JLPT 受験日直前の1か月間で、受講期間に2回分の模擬試験を受け、その後に復習しながら受験対策ができます。

学習内容: JLPT 日本語能力試験対応模擬テスト(N1～N5全レベル)
受講期間: 11月4日～12月3日
受講者数: 5名(内訳: N1-1名、N2-4名)
受講料: 無料

視察報告

10月25日 佐伯高校 30名



発行日 2024年3月29日
発行 広島市立大学語学センター
〒731-3194 広島市安佐南区大塚東 3-4-1
編集 堀本真由美、沖野佳代

Phone (082)830-1509 [内線: 6410]
Fax (082)830-1794
E-mail lang@m.hiroshima-cu.ac.jp
ホームページ

<https://call.lang.hiroshima-cu.ac.jp/lang/index.html>

